

「つくって伝える」メディア制作活動の充実を目指して

～メディア制作を助けるWeb教材とタブレット端末による支援を通して～

栗原市立岩ヶ崎小学校 教諭 遠藤 麻由美

1. 実践の目的

今年度から完全実施された学習指導要領では、思考力、判断力、判断力を育み、他者や社会とかかわっていく手段である言語に関わる能力の伸張を図る「言語活動の充実」が強調されている。言語を伴った表現活動には、スピーチや討論など、口頭・対面のコミュニケーション場面で発揮されるものと、新聞・リーフレットのように紙の上で表現されるものや、ニュース番組、CM、プレゼンの発表資料のようにメディア上で表現されるものがある。

小学校では国語、社会、総合的な学習の時間など各教科の学習において、児童が言語による表現を伴ったメディア作品を制作する機会が多くなってきている。しかし、実際に指導の場になると、例えば学習のまとめを新聞に表す場面では、記事の書き方、写真等の選び方、見出し、割り付けの仕方など、新聞を完成させるまでに様々な学習課題が複合的に存在するために、学習のめあてに到達する前に多様な指導の手を加える必要が出てくる。さらに児童からみても、例えばビデオ制作ではカメラワークや録音の仕方、テロップをどうするか、画面の配置をどうするかなど、どの場面でもどのように制作活動に取り組みばよいのか、どうすればよりよい制作物になるのかという観点

が明確にはなっていない。これらの理由から、メディア作品を制作に消極的になってしまったり、しっかりとした観点を与えずに制作活動をさせてしまったりすることが多く見られる。そこで、4種類のメディア制作活動を支援するweb教材の開発を試みる。さらに1グループにつき1台のタブレット端末を配布し、各グループでweb教材をいつでも閲覧できる環境を設定し、タブレット上で児童がいつでも教材を閲覧できるようにすることで、教師は教科単元のねらいにしぼった指導が可能になるとともに、児童にとっては教材と比較しながら自分達の作

品をよりよいものに高めていけると考えた。

※なお本実践はパナソニック教育財団平成23年度先導的実践研究【「つくって伝える」学びの質的向上を目指したループリック連動型web教材の開発 研究者代表：東北学院大学 准教授 稲垣忠】の支援を受けたものである。

2. 実践の内容

(1)web教材とループリックの開発

本教材では、新聞、プレゼンテーション、ビデオ、リーフレットの4つのメディア制作活動を対象とし、各メディア制作活動の観点を伝える内容を主に考える「つくる」場面、相手への伝え方を考える「伝える」場として整理した。さらに、それぞれの観点についてのループリック（評価基準）を作成した。

メディア	ステップ	観 点	概 要
プレゼンテーション	つくる	順 番 内 容 文 字 図・写真	スライドの構成 スライドの分量（発表時間に応じた枚数） 見出しや箇条書きを利用する 伝えたいことにあった図や写真の選択
	つたえる	話し方 質 問	声の大きさや話す速さ、アイコンタクト等 聞き手からの質問に適切に答えられるかどうか

表1 プレゼンテーションに関する観点

	文字	内 容	順 番	図・写真
ずばらしい S	見出しや文章を工夫し、伝えたいことを強調（きょうりょう）したり、くわしくしたりしています。	発表時間にあつた一のスライドに、伝えたい内容を例（れい）などを使って分かりやすく説明しています。	(1) 伝えたいこと (2) 調べたわけ (3) 調べ方 (4) わかったことがつながついて、興味（きょうみ）をもたせる工夫をしています。	伝えたいことにあった図や写真を選び、大きさや見せ方を工夫しています。
よくできている A	見出しがあり、文字が多すぎないように、かじょう書きにするなど工夫しています。	発表時間にあつた一のスライドに、伝えたい内容を説明しています。	(1) 伝えたいこと (2) 調べたわけ (3) 調べ方 (4) わかったことが正しくなっています。	伝えたいことに合った図や写真を使っています。
あと一歩 B	見出しはありますが、文字が多く、文章で書いているところが多く、見づららしいスライドです。	発表時間にあつたスライドのまがいや、説明がたりないところがあります。	(1) 伝えたいこと (2) 調べたわけ (3) 調べ方 (4) わかったことが入っていませんが、順番がらっています。	図や写真を使っていますが、伝えたいこととあまり関係がありません。
がんばろう C	見出しがないスライドや、文字が小さくて読みづらいスライドです。	発表時間にあつたスライドの数が少なすぎたり、多すぎたりしています。	(1) 伝えたいこと (2) 調べたわけ (3) 調べ方 (4) わかったことのどれかが抜けかけています。	図や写真をほとんど使っていません。

表2 プレゼンテーションに関するループリック

(2) サンプルおよび解説教材の開発

ルーブリックの4つの段階ごとにサンプルとなる静止画や動画と事例の解説教材を研究同人で作成した。できるだけ短時間でポイントをつかめるように、アニメーションやテロップにより注釈を入れポイントがつかみやすいようにした。

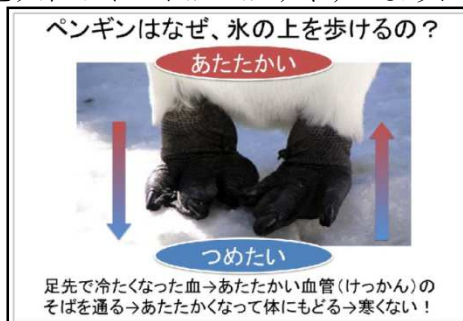


図1 プレゼンのサンプル教材の例

(3) 実践授業

4年：総合的な学習の時間

単元名：「岩ヶ崎小学校のよさを伝えよう」

単元のねらい：2年後に再編統合する学校の友達に岩小のよさを伝える。

本校は2年後に本校の校舎において栗駒小と鳥矢崎小と再編統合する予定である。その時に6年生となる4年生が安心して再編を迎えられるように、岩小の魅力を探し、それらを新聞、ビデオ、プレゼン、リーフレットの4つのメディアによってまとめ、他の2校に伝えることを目的とした学習活動である。

本時の活動は、それまで作ってきた制作物をipadを活用し、つくった教材を閲覧しながら自分達の制作物の自己評価を行うとともに、これからの改善点を明らかにすることを目的とした。

<導入>

ルーブリックのSABC4段階の意味を押さえ、本時は自分達の作品について、付くツタの教材と比較しながら評価を出し、より改善するポイントを見つけることを確認した。

<展開>

6グループに一台ずつipadを準備し、自由に使用させた。子ども達はipadの教材と自分達の作品を行き来しながら、「この点ではぼくたちのAだね」「こうすると具体的なんだね」「たしかにこっちの方が分かりやすいな」「どうしたらSになるのかな」と自分達の作品を評価しつつ、ルーブリックのS評価を目指して、パソコンに戻り制作活動を進めていった。



写真1 ipadを使いつくった教材をみる児童



図2 教材使用以前の作品（新聞作成チーム）



図3 授業後の作品（新聞作成チーム）

<まとめ>

最後にグループごとに今日気づいたこと、これからの改善点について発表をした。「見出しを目立たせることが大切だと思った。」「言葉の違っているところを直したい。」など教材を見たことにより気づいた自分達の制作活動の改善点を発表することができた。新聞チームでは、見出しをはっきり付けること写真の大きさ、配置を工夫することが分かり、ipad内の教材を参考にしながら図3のように作品を作り直すことができた。

3. 成果

これまでは教師がグループを回りながら「こうした方がよい」という改善点を一つ一つ支援する必要があったが、この教材を用意したことにより児童は自ら自分達の学習の評価を行うとともにさらによい制作物に近づくことができた。また自由に閲覧・参照できるipadの活用で、休み時間にも進んで教材に取り組む姿が見られた。

今後は総合だけでなく他教科においても活用を図り、教材の有効性を実証していきたい。

